

「宮城の将来ビジョン」における体系	政策名	7 将来の宮城を担う子どもの教育環境づくり	政策担当部局	教育庁, 経済商工観光部
			評価担当部局	教育庁

政策の状況

政策で取り組む内容

宮城の確かな未来を構築していくためには、将来を担う子どもの能力や創造性を最大限に引き出す教育環境の整備が必要です。児童生徒が自らの進路実現に向けて、希望を達成できるような「確かな学力」の定着が求められる中で、我が県の児童生徒の学力は、他県と比較して低迷しているという調査結果もあることから、学力を向上させることが急務となっています。このため、学力の向上に重点を置き、教員の一層の指導力向上や、学校と家庭との連携などにより、確かな学力の定着に向けた実効ある方策を進めるとともに、社会の変化に対応した教育を推進します。また、地域社会との連携のもとで、公共心、健全な勤労観など、将来にわたり社会の中で生きていく力をはぐくみ、児童生徒の道徳心などの豊かな心とたくましく健やかな体の育成を図ります。

政策を構成する施策の状況

施策番号	施策の名称	事業費 (決算(見込)額, 施策の事業費合計)	目標指標等の状況	現況値 (測定年度)	達成度	施策評価
15	着実な学力向上と希望する進路の実現	132,193千円	児童生徒の家庭等での学習時間(小学5年生:30分以上の児童の割合)	75.1% (平成19年度)	A	やや遅れている
			児童生徒の家庭等での学習時間(中学2年生:1時間以上の児童の割合)	51.9% (平成19年度)	C	
			児童生徒の家庭等での学習時間(高校1年生:2時間以上の生徒の割合)	13.1% (平成19年度)	B	
			「授業が分かる」と答える児童生徒の割合(小学5年生)	74.7% (平成19年度)	B	
			「授業が分かる」と答える児童生徒の割合(中学2年生)	56.7% (平成19年度)	A	
			「授業が分かる」と答える児童生徒の割合(高校1年生)	41.0% (平成19年度)	B	
			学習状況調査での正答率60%以上の問題の割合(小学5年生)	68.0% (平成19年度)	C	
			学習状況調査での正答率60%以上の問題の割合(中学2年生)	36.9% (平成19年度)	C	
			大学等への現役進学達成率の全国平均値とのかい離	-2.6P (平成18年度)	C	
			新規高卒者の就職決定率とのかい離	0.4P (平成19年度)	A	
16	豊かな心と健やかな体の育成	285,849千円	不登校児童生徒の在籍者比率(小学校)	0.31% (平成18年度)	B	やや遅れている
			不登校児童生徒の在籍者比率(中学校)	3.07% (平成18年度)	C	
			不登校児童生徒の在籍者比率(中学校1年)	2.23% (平成18年度)	C	
			児童生徒の体力・運動能力調査で過去7年間の最高値を超えた項目の割合	34.3% (平成19年度)	B	
17	児童生徒や地域のニーズに応じた特色ある教育環境づくり	1,650,621千円	外部評価を実施する学校(小・中・高)の割合(小学校)	33.3% (平成18年度)	C	概ね順調
			外部評価を実施する学校(小・中・高)の割合(中学校)	29.0% (平成18年度)	C	
			外部評価を実施する学校(小・中・高)の割合(高校)	99.0% (平成19年度)	B	
			特別支援学校の児童生徒が居住地の小・中学校の児童生徒と交流及び共同学習した割合	25.1% (平成19年度)	A	

※目標指標等の達成度 A:「目標値を達成している」  
 B:「目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と同方向に推移している、又は現状維持している」  
 C:「目標値を達成しておらず、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と逆方向に推移している」  
 N:「現況値が把握できず、判定できない」

## 政策評価(総括)

政策の成果(進捗状況)	評価	評価の理由・各施策の成果の状況
<p>・各施策の成果等から見て、政策の進捗状況はどうか。</p>	<p>やや遅れている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の宮城を担う子どもの教育環境づくりに向けて、3つの施策で取り組んだ。</li> <li>・施策15について、各事業とも概ね効率的に実施され、その成果があったと分析されているが、目標指標の中で達成していないものが数件ある等、課題もあり、やや遅れていると判断する。</li> <li>・施策16について、各事業とも概ね効率的に実施され、その成果があったと分析されているが、目標指標の中で中学生の不登校在籍比率が増加するなど、やや遅れていると判断する。</li> <li>・施策17について、目標指標の中で外部評価を実施する学校の割合が、国のガイドライン変更により減少しているが、各事業は概ね効率的に遂行し、所期の成果を挙げていると判断し、概ね順調とする。</li> <li>・政策全体としては、施策15、16がやや遅れていると判断していることや県民の期待に対して満足度が充分ではないこと、また社会情勢としても教育には様々な課題があり、対応が求められていることなどから、概ね順調とは言い難く、将来の宮城を担う子どもの教育環境づくりは、やや遅れていると判断し、危機感を持って政策推進にあたっていく。</li> </ul>

## 政策を推進する上での課題等 ※施策の必要性・有効性・効率性の観点からの課題等

<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策15について、学力向上は県民の期待も大きく、喫緊の課題でもあるので更に強化する必要がある。また地域や時代の要請に応える産業人材育成のためにキャリア教育の一層の推進が重要である。</li> <li>・施策16について、目標指標の中の不登校児童生徒の在籍比率について、中学校で増加しており、専門家、関係機関との連携によるきめ細かな教育相談体制の確立を図る必要がある。</li> <li>・施策17について、学校評価におけるPDCAサイクルの確立、教育福祉複合施設設置に向けた取組、各学校種ごとの特別支援教育の充実を図る必要がある。</li> <li>・教育を巡る環境は、様々な課題があり、やや遅れていると判断した。教育に関する政策は、すぐに目に見える形で成果が現れるものではないが、時代の変化やニーズの多様化、様々な課題等を認識しながら、本政策を一層推進する必要がある。</li> </ul>
--